

岩手県水素利活用構想 概要版

1 はじめに

～我が国の水素・燃料電池技術開発の開始から本構想策定までの経緯～

2 策定の趣旨

(1) 背景

ア 国の動向

- ・ エネルギー基本計画
⇒水素社会の実現に向けて取組を抜本強化
- ・ 水素・燃料電池戦略ロードマップ
⇒2040年頃までにCO₂フリー水素供給システムを確立
- ・ 水素基本戦略
⇒国を挙げて水素利用に取り組み、世界に先駆けて水素社会を実現

イ 岩手県のこれまでの取組

- ・ 平成 28 年 3 月に岩手県地球温暖化対策実行計画を改訂し、水素エネルギー利活用に向けた可能性検討を位置づけ
- ・ 平成 29 年度に調査研究を実施し、地域特性を踏まえた利活用モデルを取りまとめ

(2) 目的

取組の方向性を示し、県民、事業者、研究機関、自治体等が一体となって推進

(3) 想定年次

2030 年頃の本県の姿を想定

(4) 構想の位置づけ

- 「いわて県民計画 (2019～2028)」の長期ビジョンに掲げる「水素利活用推進プロジェクト」の具現化
- 「岩手県地球温暖化対策実行計画」の「再生可能エネルギーの導入促進」に向けて、水素利活用を推進

3 水素の特徴・有効性

- (1) CO₂を排出しないクリーンなエネルギー
- (2) 多様なエネルギー源から製造可能
- (3) 再生可能エネルギーと水から製造できる枯渇しないエネルギー
- (4) 長期間の安定保存、運搬が可能
- (5) 電気と熱の併給によりエネルギー効率が低い

4 岩手県が取り組む意義

- (1) 温室効果ガス排出量の削減
- (2) 再生可能エネルギーの有効活用
- (3) 災害時のエネルギー源としての活用
- (4) 熱エネルギーとしての活用
- (5) 地域経済の活性化

5 岩手県が目指す姿

岩手県の豊富な再生可能エネルギー資源を最大限に生かし、再生可能エネルギー由来の水素を多様なエネルギー源の一つとして利活用する取組を通じて、低炭素で持続可能な社会を実現

6 施策の方向性

(1) 地域資源の好循環に向けた再生可能エネルギー由来の水素の利活用推進

- 利活用モデルの実証事業の導入、利活用の推進
 - ・ 水素利活用モデルの実証事業の導入に向けた事業計画の作成や実施体制の構築
 - ・ 実証事業の導入による効果や課題の検証、県内各地域への普及、展開の促進
- 水素ステーションの整備状況を踏まえたFCバスの実証運行、事業者と連携した導入促進

(2) 水素関連製品等の普及促進

ア 水素ステーション、FCV、FCフォークリフト等

- 簡易型水素ステーション及びFCVのモデル導入に向けたニーズ調査の実施、検討
- 水素ステーションの整備促進に向けた研究会の設置・検討、国や関係機関等と連携した整備促進
- 先行導入事例の紹介や導入メリットの普及啓発等によるFCVやFCフォークリフトの導入の働きかけ
- 継続的な財政支援や関係法令等の規制の見直し等に係る国への要望

イ エネファーム、産業用燃料電池等

- 国の補助金の周知や導入メリットの普及啓発等による導入の働きかけ
- 公共施設等へのモデル導入に向けた検討

(3) 水素関連ビジネスの創出・育成

- 水素関連ビジネスへの事業者の参入支援
 - ・ 再生可能エネルギーからの水素製造・貯蔵、設備設置工事、メンテナンス等に関する事業者向けセミナーの実施
 - ・ 地元事業者による自主的な勉強会の設置・運営の支援
- 産学官連携による研究開発の促進、ビジネスシーズの検討
- 再生可能エネルギーを活用した水素製造等の研究機関の誘致の働きかけ、実証フィールドの提供調整

(4) 水素の理解促進・地域連携

ア 水素の理解促進

- 広報媒体を活用した普及啓発や環境学習を通じた水素の安全性や利便性等の理解促進
- セミナー等での水素利活用の取組紹介やFCVの展示・試乗等による水素の理解促進
- 災害等非常時におけるFCVや燃料電池等の電力供給機能の周知

イ 地域連携

- 県内市町村や東北各県との情報共有、地域連携の可能性検討

— 岩手県の将来の水素社会のイメージ —

